第三種郵便物認可　令和６年10月８日（火曜日増刊）

令和六年十月八日　ＡＪＵ通巻一五二八八号　昭和五十四年八月一日第三種郵便物認可（毎週火曜日発行）

ＡＪＵ みずほ

NPO 法人高次脳機能障害友の会みずほ
会報　第９４号

会員　岩田 身庸（ちかつね）さんの作品

目次

■「すん」について　P2
■ 企画グループ　P3　■ ミラクル（妻の会）＆レディースの会　P4
■ 働くなかまの集い　P5　■ キッズプラス　P6　■ 若い失語症者のつどい　P7
■ ワークハウスみかんやま　P8～9　■ 家族体験記　P10
■ 会員さんの作品　ご紹介「ちょこっと紹介」など　P11　■ 入会の案内など　P12

※ あいち高次脳機能障害リハビリテーション講習会のチラシが入っています

「すん」について

サラリーマン生活引退後、家にいる時間が長くなったせいか、数十年ぶりにNHKの朝ドラを見る機会が増えてきています。私が毎日見ていた最後の朝ドラは「旅路」（昭和42年度放映）でしたので、半世紀以上の時を経て朝ドラファンに戻ったことになります。取り分け今年度上期の朝ドラ「虎に翼」には年がいもなくはまってしまい、やたら「はて？」を連発し、家族に煙たがれる始末です。

本作の良さは主演の伊藤沙莉さんをはじめとする出演者達の名演技や、森優太氏による心が震える劇作音楽によるところ大だと思いますが、そもそも吉田恵理香氏の脚本が素晴らしい出来だと感じています。思い込みの強い一視聴者として、勝手に虎に翼のメインテーマは、「すん」と「自己決定権」だと思っています。

ご覧になっていない方には「何のこっちゃ？」でしょうが、「すん」とはマジョリティ（多数派）側がマイノリティ（少数派）側の意思や感情を無視し、いわゆる常識（らしきもの）を強要した際に、マイノリティ側が示す態度です。表情が鉄仮面のようになり、意に染まない言葉に対しても何の意思表示もしません（出来ません）。

ドラマでは主人公の同級生で主婦兼母親が、夫や息子達から法律を学ぶことを馬鹿にされた際に、この「すん」状態になります。「すん」を強制されることが何よりも嫌いな主人公がこの状態に怒り、同級生が自分の道を進むことの手助けすることにより、同級生は「すん」から解放されていきます。しかし主人公も一家の稼ぎ手となり、法曹の世界で地位を築くに従い、大事な一人娘を知らないうちに「すん」に陥らせてしまいます。

私が優れた脚本だなと感じるのは、マジョリティからの強要に立ち向かうマイノリティを一方的に描くだけでなく、知らず知らずのうちに、誰もが誰かに「すん」をさせてしまうことがあり得ることを描いている点にあります。

私たちはともすれば「男なんだから」「女なんだから」「子供なんだから」「障害があるんだから」と、常識らしきことを求め、誰かが「すん」とならざるを得ない状態に追いやってはいないでしょうか？

「何を今更」と子供達やかつての部下達、何よりかみさんからの突っ込みを覚悟しつつ、虎つばロスになりかかっている、今日この頃です。

理事長　長谷川　潤